

第 77 回 経営協議会議事要録

日 時：令和 2 年 6 月 25 日（木） 15：00～17：05

場 所：本部管理棟 5 階会議室及び Teams 会議

出席者：櫻井学長、辻田理事（総務・財務・企画担当）、岩崎理事（教育担当）、本家理事（研究・評価・医療担当）、受田理事（地域・国際・広報・IR 担当）、宮井理事（ワークライフバランス担当）、執印医学部附属病院長
岩瀬委員、河合委員、川村委員、中澤委員、中島委員、野並委員、原委員、山崎委員

欠席者：岡村委員

陪席者：関監事、大崎監事、小山副理事（総務・財務担当）・事務局長、総務部長、研究国際部長、医学部・病院事務部長、研究国際部次長

〔配付資料〕

- 資料 1-1 平成 31 事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間（平成 28～31 事業年度）に係る業務の実績に関する報告書（案）
- 1-2 令和元年度 年度計画進捗状況一覧表（最終）
- 1-3 令和元年度 年度計画進捗状況報告書（最終）
- 資料 2-1 令和元年度決算の概要について
- 2-2 令和元年度財務諸表（案）（抜粋）
- 2-3 独立監査人の監査報告書
- 2-4 監事監査報告書
- 資料 3-1 令和 2 年度資金管理計画表（変更案）
- 資料 4-1 令和 3 年度概算要求事項（案）一覧（機能強化経費等）
- 4-2 （参考）第 3 期中期目標期間における重点的取組
- 4-3 「令和 3 年度施設整備費要求」（案）一覧
- 4-4 高知大学（医病）附属病院再開発整備基本計画書
- 資料 5-1 令和元年度資金運用状況（令和 2 年 3 月）
- 資料 6-1 国立大学法人高知大学学長選考会議委員候補者名簿
- 6-2 関連規則（抜粋）

議事に先立ち、岩瀬氏、河合氏、原氏の 3 名が、Teams を使用した Web 会議で出席する旨の報告が行われた。次に、新しく経営協議会委員に就任した野並氏、原氏の挨拶が行われた後、新任の役員の紹介があり、岩崎理事から挨拶が行われた。

引き続き、第 75 回経営協議会及び第 76 回経営協議会の議事要録（案）の確認が行われ、異議なく承認された。

〔議題〕

1. 平成 31 事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間（平成 28～31 事業年度）に係る業務の実績に関する報告書（案）について

本家理事から、資料 1-1～1-3 に基づき、平成 31 事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間（平成 28～31 事業年度）に係る業務の実績に関する報告書（案）について概要の説明が行われた後、各担当理事から、戦略性が高く、意欲的な目標・計画の状況について詳細な説明が行われ、審議の結果、承認された。

なお、今後、役員会の議を経て国立大学法人評価委員会に6月末に提出することとし、加筆修正の必要が生じた場合は、学長に一任することについて、了承された。

2. 令和元年度決算について

事務局長から、資料2-1～2-4に基づき、令和元年度決算について説明が行われ、審議の結果、承認された。

3. 令和2年度資金管理計画の変更について

事務局長から、資料3-1に基づき、令和2年度資金管理計画の変更について説明が行われ、審議の結果、承認された。

4. 令和3年度概算要求について

事務局長から、資料4-1～4-4に基づき、令和3年度概算要求について説明が行われ、審議の結果、承認された。

なお、今後の加筆修正については、学長に一任することで了承された。

5. 資金運用状況について

事務局長から、資料5-1に基づき、令和元年度資金運用状況について報告が行われた。

6. 国立大学法人高知大学学長選考会議委員の選出について

学長から、国立大学法人高知大学学長選考会議委員の選出について、資料6-2の関連規則の規定に基づき、資料6-1の候補者を対象に選出することが確認された。学長から、学長を除く委員が連記無記名投票により6人の学長選考会議委員を選出すること、Web会議による出席者がいることから、委員に投票用紙を送付する書面形式とすること、投票数が同数で6人全員が決まらない場合は、投票数同数の委員を対象に再度投票を行うこと、開票作業は関監事立合いの下で事務局で行うこと、改めて経営協議会（書面会議）を開催し、開票結果を基に審議し選出することの提案が行われ、了承された。

7. 大学運営に関する意見交換

学長から、「新型コロナウイルスに対する高知大学の取組と今後の大学の在り方」について意見交換を行う旨の説明があった。辻田理事及び小山事務局長より、机上配布資料に基づき、新型コロナウイルス感染症に対する高知大学の取組状況の説明が行われた。また、川村委員から、「COVID-19×教育DX」をテーマとする発表が行われた後、意見交換が行われた。

なお、各委員より、主に以下の意見があった。

- ・新型コロナウイルスの感染拡大への対応で、これまで難しいとされていた分野でもDX (Digital Transformation) が一気に拡大している。また、ネットワークを活用した分野横断的にイノベーションを創出する動きが、若い人を中心に増えてきている。これを体験した人としなかった人で大きな差になると思う。
- ・「with コロナ」、「after コロナ」に積極的に取り組むかどうかで、社会と教育現場、あるいは教育現場間でデジタルデバインドが更に拡大している。社会にイノベーションを起こしていくため、この断層をどのようにして埋めていくかが大学の役割ではないかと考えている。
- ・オンライン勉強会を開催して、知識のアップデートに取り組む学生もいる。積極的にオンライン学習に取り組んだ学生は、従来の学び方を求めていない。また、オンライン教育は、特殊に閉ざされていた教育の世界がオープンになったと言える。高知大学だけの問題ではないが、「人」を中心にした社会のイノベーション・マネジメント力を育成する事を考えて

いかなければならないと思う。

- 当面の大学の問題を考えると、移動制限の問題から、今年度の入試は他県からの志願者が激減するのではと危惧している。経営的にも大きな問題なので、入試などの直近の問題と少し先の問題を分けて考えるべきだと思う。
- オンライン教育は既定路線であると考えべきである。また、オンラインを活用したりカレント教育や公開講座は、高知県の教育を広げるチャンスになると思う。
- 就職活動において、面接や企業のイベントの多くがオンラインに切り替わっており、デジタル慣れした都市部の学生の方が有利な状況となっている。これに対して大学がしっかり指導できる体制を作れるかどうか重要である。

以 上